

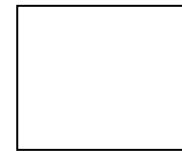
←動画



1963年のムオンタイン橋。
1954年のデイエンピエンフーの歴史的勝利後、アメリカの北爆が始まろうと言う時代である。勝利の戦闘を回顧するように、橋上で凶面を広げている。橋周辺司令部跡周辺の農村風景が映示される。破壊された兵器はそのままの状態である。戦車砲塔に乗り回転させて喜びを表現している。タイ族の若い女性が民族服正装で歌いながら歩いてくる。ウォー・グエン・ザップ将軍が懐かしむように話しているインタビューに出てくる。若い。

第二の村

ド・キャストリ司令部跡を左に見て、大木の並木道をバイクで10分。平坦で広がりのある水田地帯のど真ん中を走ります。画像のようなかなり大きな村に到着。ベトナムタイ族の村。高床式の大きな居宅が並びます。巨木の緑に覆われた家々が好ましい集落景観を醸し出します。豊かな暮らしと見受けられます。ここでも、勤労者所帯との混在が一部に見られます。



↑動画

ムオンタイン橋を渡り、村までバイクを進める。ド・キャストリ司令部跡を過ぎると、平坦な農地が広がり、集落の中を突切って村に着きます。道中をお楽しみください。

一軒の大きな居宅を訪れました。女性が織物にたずさわる農家です。

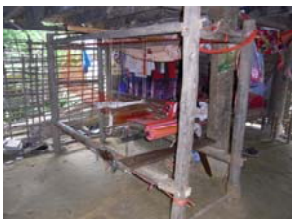
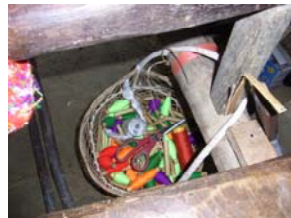




←コンクリート塀とゲートに囲まれた3棟の大きな居宅。大木に覆われ、裏には小河川が流れます。ゲートを入ると稲ワラ堆肥に水牛。民族服の女性が孫を連れて歩いてきた。



↑一階右端が織物作業場。やってみてくれませんかと言うと一家の嫁が実演してくれた。
↓織に必要な器具について説明。伝統的な柄を織って見せてくれた。好感のもてる女性。



←織機の右は布団が敷かれ若者が仮眠。例のマットレス。布は寝具にも使われる。快適そうだ →



←一階は農機具。発動機をまわし、万力ではさんで何やら器具を制作中。右は別棟に住む老夫婦。入口で老父が漁網を編んでいる。その背後に老婦が寝床に。寝床から声「お客さんにお茶を出してあげなさい」と言っている。見ず知らずの外国人の我々に・・・豊饒たるもの。織物作業場に起き出してきて、合流した。何と100歳を超えている。老父は94歳。元気。

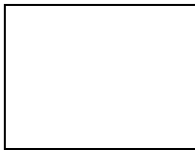




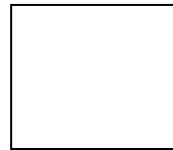
←この年齢の人は、伝統的な民族服の日常着である。
自家生産の綿、インディゴ染め。暑い気候に着やすそうなもの。老婦は伝統の髪型、腕にプレスレット、首にネックレス、耳にはイヤリング。足には白い靴下。サンダル。苦難の歴史を生き抜いた手。インドシナ戦争・ベトナム戦争の経験を聞こうと思ったが聞きそびれた。それでいいのだ。一家が安寧でありますよう！



←記念写真を撮って、住所を聞き出し、写真を送ることを約して別れた。織物を実演してくれた女性は恥ずかしがって写真拒否。この8人の関係は想像するだけであるが一族の住まいの仕方は何処でも同じ。核家族なんて見られない。



←動画
機織り



←動画
漁網編み



←このような集落道をバイクで帰路に。見えなくなるまで彼らが見送っていた。



村からまちへの帰路の風景



↑学校があります。こどもたちが芝の張られたグラウンドで遊んでいます。放課後帰路につくこども



←帰路に着く時間帯です。家では夕食の準備。田舎道のチョットした辻は人が集まります。食材の市が立ちます。



広大な水田地帯が続きます。水牛が田を鋤きます。排水の悪い湿田状態。用排水未整備。

↓も畜舎に帰ります。



←ド・キャストリの司令部跡の近く。戦車が展示。



↑夕闇が迫ります。さらにバイクを進める。雲間から刺す夕陽が遠くの焼畑を照らす。まちに戻りました。正面の道路奥に「勝利の記念像」がみえます。